もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースⅠ （楽々）
文禄堤・京街道・守口宿コース

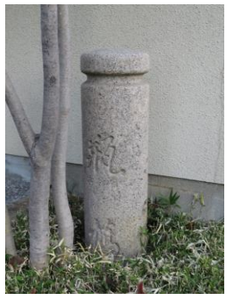
京阪電車守口市駅東口－(20m)－〇「文禄堤の町」石碑(駅北西広場内)－(30m)－〇十三夜坂－(100m)－(㉘文禄堤・京街道・守口宿)－〇復原高札場－(150m)－旧徳永家住宅－(50m)－〇来迎坂－(150m)－㉕難宗寺－(100m)－㉔盛泉寺－(100m)－〇瓶橋の跡－(150m)－㉓一里塚跡・上見附－(320m)－㉖守口宿本陣跡(説明板のみ)－(20m)－㉗大塩平八郎ゆかりの書院跡(説明板のみ)－(20m)－(高札場跡・八島交差点付近)－(㉘京街道・本町橋・守居橋経由720m)－〇下見附－(200m)－京阪電車守口市駅西口　　(全 2,130m)

（〇番号は守口文化財ガイドマップと共通）

もりいばし　ぶんろくつつみだんめん
〇守居橋と文禄堤断面

いちりづかあと・かみのみつけ
㉓一里塚跡・上見附

もりぐちしゅく きゅうとくながけじゅうたく
〇守口宿 旧徳永家住宅



かめはし あと
〇瓶橋の跡

おおしおへいはちろう　しょいん
㉗大塩平八郎ゆかりの書院跡

じょうせんじ
㉔盛泉寺本堂

たつたどおり
〇竜田通
（右手に㉖守口宿本陣跡、右奥に㉕難宗寺）

なんしゅうじ
㉕難宗寺本堂

史跡散策コースⅠ（楽々）
文禄堤・京街道・守口宿コース

京阪電車守口市駅東口－(20m)－〇「文禄堤の町」石碑(駅北西広場内)－(30m)－〇十三夜坂－(100m)－(㉘文禄堤・京街道・守口宿)－〇復原高札場－(150m)－○旧徳永家住宅－(50m)－〇来迎坂－(150m)－㉕難宗寺－(100m)－㉔盛泉寺－(100m)－〇瓶橋の跡－(150m)－㉓一里塚跡・上見附－(320m)－㉖守口宿本陣跡(説明板のみ)－(20m)－㉗大塩平八郎ゆかりの書院跡(説明板のみ)－(20m)－(高札場跡〈八島交差点付近〉)－(㉘京街道・本町橋・守居橋経由720m)－〇下見附－(200m)－京阪電車守口市駅西口　　（全　2,130m）

（○番号は守口文化財ガイドマップと共通）

○十三夜坂（じゅうさんやざか）

京阪電車守口駅北西駅前広場から、文禄堤上の京街道に上がる坂道。ここが京街道と中高野街道の分岐点となる。

十三夜坂の坂道

○旧徳永家住宅（きゅうとくながけじゅうたく）

京街道に面して間口十間の主屋があり、座敷周りに前庭が広がる。住宅は木造二階建てで、二階部分が低い厨子（ずし）二階という形式である。

旧徳永家住宅

○来迎坂（らいこうざか）

文禄堤上の京街道から東に折れて、奈良街道に入る石段の下り道。坂の上に「右 なら のざき みち」の道標がある。石段を下りたあたりが「来迎町」で、来迎寺が元はこのあたりにあったことによる。

来迎坂の石段

来迎坂上の道標

○復原高札（ふくげんこうさつ）

守口宿の高札を復原したもの。本来の場所はここではなく、絵図などによると、京街道が難宗寺の方に折れる八島交差点付近である。

㉕難宗寺（なんしゅうじ）

蓮如上人が、文明９年(1477)に創立した守口御坊が始まりと伝えられ、慶長16年(1611)に本願寺掛所に昇格し、西御坊と呼ばれるようになった。慶長20年(1615)の兵火で焼失し、寛永13年(1636)再建されたが、その後もたびたびの風水害などで朽廃したため、石清水八幡宮護国寺仮堂の古材を再利用して、文化７年(1810)に再建されたのが現在の本堂である。

境内には樹齢約500年、樹高約25m、直径約1.5m、枝張約15mの大イチョウがあり、秋の紅葉の頃は、本堂前が黄色落葉で埋め尽くされる。昭和50年に大阪府の天然記念物に指定された。

難宗寺のイチョウ

㉔盛泉寺（じょうせんじ）

盛泉寺は東本願寺の末寺で、教如上人を開基として慶長11年(1606)に創建されたとされ、東の御堂さんと呼ばれている。

本堂は慶長20年(1615)の兵火により焼失し、その後、寛永年間(1624～44)に再建され、現在の本堂は天保６年(1835)再建のものである。入母屋造本瓦葺で、桁行・梁行とも五間で、周りに一間の庇をめぐらせている。明治天皇の大阪行幸の際、当寺は内侍所の奉安所となり、屏重門前には「史蹟 内侍所奉安所阯」の石碑がある。

盛泉寺屏重門

○瓶橋の跡（かめはしのあと）

瓶橋は守口町の北の境にあった橋で、ここより北は江戸時代以降にできた新しい町になる。「口を守ること瓶の如し」を「守口」にかけて命名したと言われる。もとは板橋で、のち土橋になり、さらに石橋に架け替えられた。現在は暗渠となり、石柱のみが橋の存在を示すものとして残っている。

㉓一里塚跡・上見附（いちりづかあと・かみのみつけ）

一里塚は、二代将軍徳川秀忠が五街道を整備した時、一里(約４km)ごとに街道の両側に土を盛って里程の目標にしたもので、多くは榎・松の木が植えられていた。浜町二丁目にある京街道の一里塚跡には、今は記念碑が建てられている。

一里塚記念碑

一里塚付近は、また守口宿の「上の見附」、すなわち宿場の江戸側の出入り口にあたり、大名が通過したり宿泊する時は、庄屋などの宿役人や村役人が、麻上下などを着用して、この一里塚まで送迎した。

㉖守口宿本陣跡（もりぐちしゅくほんじん）

本陣とは、江戸時代の全国の宿場に設けられた、大名・幕府役人・勅使・宮門跡等の宿泊のための屋敷である。

守口宿本陣のあったところは竜田通一丁目付近で、ここは現在も道路幅が広くなっている。守口宿の街道幅は２間半(約4.6m)と定められていたが、ここは15m余りもあり、この場所で人や荷物の継立が行われたた道幅が広くなっているのである。

守口宿本陣跡の現状

㉗大塩平八郎ゆかりの書院跡（おおしおへいはちろうしょいんあと）

近世守口町の豪農白井家の当時の当主孝右衛門は、大塩の私塾洗心洞の有力門人で、経済的支援も行っていた。天保年間にききんが続き、大坂市中にも犠牲者が続出したが、大坂町奉行所の役人はなんら対策を立てず、商人もその機会に利益を得ようとした。東町奉行所元与力の大塩平八郎は、幕府や商人に天誅を加えて窮民を救うべく、門下の与力や同心、近在の富農層達と謀って挙兵した。天保8年(1837)の「大塩の乱」がこれである。この書院跡は歴史上の人物にゆかりの場所といえる。

かつての書院の様子

○高札場（こうさつじょう）

守口宿の高札場は、古絵図では、京街道が文禄堤から分かれて難宗寺の方に折れるところにあった。現在の八島交差点あたりになる。京街道が八島交差点に下りていく坂道は「札場坂（ふだばざか）」といい、このあたりのかつての地名も「札ノ町」であった。

絵図右上に見える「高札」

令和4年(2022)3月31日 守口市役所生涯学習・スポーツ振興課作成